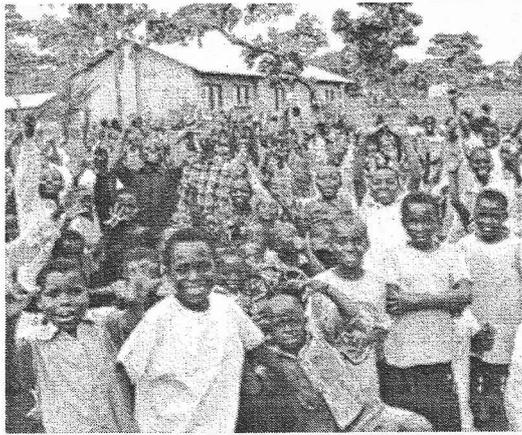


価値観の違いを越えて 共助の時代を築く 明日を作るのは若者

ともに生きる まとめ
助け合いの精神を
国際人道支援&景観保護



支援の衣服を着て喜ぶ難民キャンプの子供たち

今回で6年目になった「ともに生きる」をテーマにした特集。今年は、国際人道支援と景観保護の問題について考えてきた。具体的には、国際人道支援を使命とするピースウィンズジャパン(PWJ)、PHD協会、AMDAの3つのNGO(NPO)団体と、駒の浦(福山市役所)に取材したものであった。
そこから見えてきたものは「価値の違いを越えて支えあう関係を作る」ということである。そのことについて、もう一度振り返りながらまとめておきたい。

貧困が被害を増大

◆多発する紛争・災害
今年も終わりに近づいているが、世界ではいっこうに紛争や暴動が絶えない。今年もリビアやシリアなどアラブ諸国で多くの人の血が流され、今も流されている。イラクやアフガニスタンの状況もなかなか改善されない。
2月にはニュージーランドで大地震があり、日本では3月の東日本大震災や9月の台風による未曾有の豪雨で大きな被害が出た。最近でもトルコで大地震があったし、秋にはタイで日本では考えられない広範囲で、しかも長期に渡る水害が起きるなど巨大災害も相次いだ。

紛争などでは、政府は時に国民と敵対し弾圧する側であったりするし、巨大災害においては十分な対応ができないことも多い。もはや国家だけでは収拾できない事態が多発しているのが今の世界である。

災害の巨大化の背景にあるのは、都市化や貧困によるものも多い。都市化は人口の密集化でもあるので、いったん災害が起きると大勢の人が被災することになる。東日本大震災の折には、首都圏で大量の帰宅難民が出た

ように、大都市圏での災害がいかに広範な人々に影響を与えるかを示している。また昨年のハイチ大地震は貧困が一層被害を拡大した。

◆NGOの役割

そんな中で、紛争地や災害地にいち早く駆けつけ、弱い立場の人を救済し、また貧困にあえぐ人たちの自立を支援しているのが国際人道支援NGOである。
285号で取り上げたピースウィンズジャパン(PWJ)は、紛争や災害地にすぐさま駆けつけ、緊急支援を行っている他、たとえば東ティモールではコーヒー栽培を指導し、その販売ルートを作って、人々の経済的自立を図っている。また293号で報告したAMDAは医療を中心

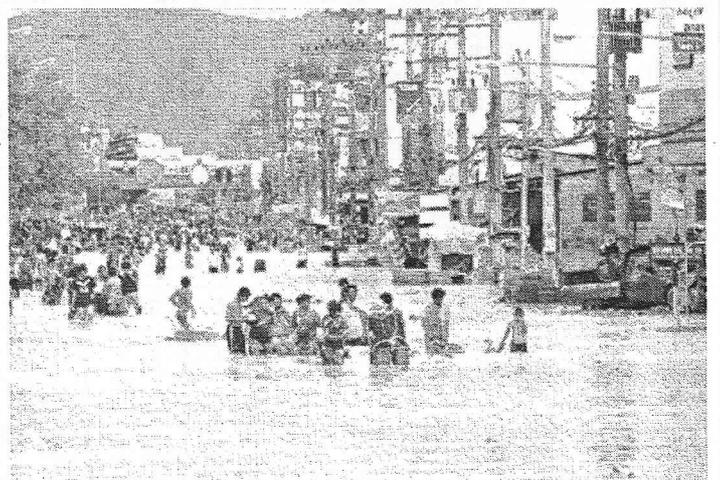
これらの団体に共通しているのは、

何かあれば即救援

ずその行動の素早さである。東日本大震災に際しても、PWJもAMDAも直ちに現地に駆けつけさまざまな支援を行ったが、その決断と実行の早さに驚かされる。AMDAは、その時代

表が不在であったが、スタッフや会員が即行動を開始した。一人でも多くの命を助けるためには、初動の早さが決定的に重要になるからだろう。

このような対応ができるのは、組織の誰もが「何か



タイの洪水のようす

あったら即救援を」という意識を共有しているからだろう。そこに、困っている人に手をさしのべ、できる限りのことをしようという組織の強い意志を感じる。また、その思いを即行動に移せるだけの力量があるからでもある。また、それができなければ、組織の意味も失われるであろう。
また、緊急だけでなく、さまざまな形で、現地の人々の自立を促す、息の長い根気のいる活動もしっかりとやっている。自立支援に必要とあらば、活動の領域を広げてでもやるという意気込みも感じる。PWJのピースウィナーの販売や、AMDAのスポーツ交流なども、そういう中から生まれてきた支援であろう。

